

優秀賞

生活施設
(東北地区)

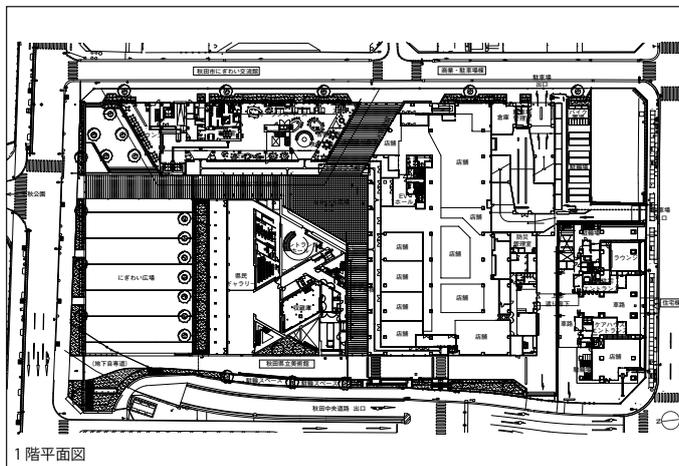
エリアなかいち (中通一丁目地区第一種市街地再開発)



県立美術館2階の水庭に面したラウンジ。水庭越しに千秋公園を望む

北西外観。
夏のにぎわい広場では
有名な竿灯まつりの妙技大会で賑わう

所在地	秋田県秋田市中通 1-4-3
敷地面積 (m ²)	17,365.45
建築面積 (m ²)	10,083.49
延床面積 (m ²)	41,493.98
構造/階数	RC造、S造/地上3、地下1ほか
事業者	中通一丁目地区市街地再開発組合(当時)
設計者	(株)アール・アイ・エー、(株)安藤忠雄建築研究所
施工者	清水建設(株)東北支店
竣工年月	2012(平成24)年9月
総工事費	8,000百万円



取り戻した賑わい

17年もの長きにわたりさまざまな紆余曲折を経て、官民関係者一丸となり粘り強く検討、調整が繰り返されたこの再開発。苦労の末にようやく完成した「エリアなかいち」。今では県内、国内外からもたくさんの観光客が訪れ、お祭りや各種イベントで賑わう姿を目の当たりにして非常に感慨深いものがあります。県立美術館、にぎわい交流館、商業施設「エリアなかいち」がこれからもふれあいの場所としてあり続けられるようさらなる賑わいを願い日々努めてまいります。

(高橋一広・なかいちビル管理組合理事長)

「エリアなかいち」は、秋田県・市・民間による商業・文教・福祉住居という複合的な再開発施設となっており、3つの施設管理者が関わりあう調整に苦労を要した作品として、また過疎化が進む市街地の中心部に賑わいの空間をつくり出すことに成功した作品として評価された。

企画については、安藤忠雄氏設計の美術館の作品としてのインパクトが大であり、特に夜間の魅力的な街路空間の演出は高く評価された。一方、3種類の異なったビルディングタイプの統合に関しては評価が分かれた。

設計については、美術館北側の賑わい広場と千秋公園の一体感、「なかいち広場」の多様な建物を統合する空間構成、美術館と商業施設の対比的特徴、交流館の地元スギ材の多用などが評価された。

施工については、美術館のコンクリート打ち放しの施工精度に加え、エントランスのらせん状の中空階段の施工が高い評価となった。敷地西側の秋田中央道出口ランプとの調整についても苦労が感じられた。ただし、美術館の2階ラウンジガラスに結露が認められるなど、やや設備使用の不足箇所も散見された。

地域社会への貢献・文化性については、「にぎわい広場」では、大型イベントの開催できるスペースが確保されており、さまざまなイベントに利用されている。「賑わい交流館」では、多目的ホールやアート・ミュージック工房などの貸室が中心に構成されており、フリースペースも含め、市民に夜間遅くまで利用されている。美術館は1階展示ギャラリーから2階眺望ラウンジまで無料開放されており、市民に身近な美術館として利用されている雰囲気も伝わってくるなど、多くの点で評価された。

施設管理の状況については、3施設の管理者が区分ごとに異なっており、難しい運用となっているが、全体として一体的に運営されており、内部調整の高さが評価される。省エネルギー、省資源については、中水の活用、照明のLED化、太陽光発電設備の設置など、標準的な仕様となっている。

耐久性・耐用性および保全のしやすさについては、汎用性の高い品目の採用を前提に、将来的な保守コストの抑制に資する機器等の選択がなされており、評価された。

全体として、ユーザーとなる市民、県民からは使いやすい施設である点に加え、美術館の空間と藤田嗣治の作品のすばらしさへの評価が高く、地方都市の再開発事業としての高い評価が与えられた。